

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900315		
法人名	株式会社 ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト西宮		
所在地	兵庫県西宮市本町2-13		
自己評価作成日	2023年3月9日	評価結果市町村受理日	令和5年4月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく・楽しく・美しくをソラスト西宮のもっとして、 ・入居者様らしい生活をすごしていただけるように、日々ご家族様や主治医とお話をしお世話をします。 ・安心・安全のためにハード面の見直しや介護スタッフのスキルアップにつとめていきます。 ・入居者様とご家族様・地域のつながりを大切にします。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念として「明るく・楽しく・美しく」を設定し、利用者個々に応じたレクリエーションの充実、ハード面の見直し、職員のスキルアップ等、理念の共有と実践に取り組んでいる。「補助シート」を活用しながら職員と共に利用者一人ひとりが、その人らしい生きがいのある生活が送れるよう、個別支援・自立支援に取り組んでいる。面会対応の工夫、毎月作成する「ソラストだより」の送付、随時電話で報告や連絡を行い、利用者の健康状態や生活の様子を伝え、利用者と家族のつながりが継続できるよう努めている。かかりつけ医・協力医療機関・グループ内看護師と医療連携を密にとり、重度化・終末期支援にも対応している。
--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	2023年3月17日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・各フロアに掲示、職員は理念カードを各自持ちいつでも共有実践できるようにしている。ご家族様への毎月の便りに明記している。	令和4年に更新した法人の理念・基本方針を共有し、理念・基本方針に地域密着型サービスの意義を明示している。玄関・多目的室・各フロアへの掲示、理念カードの携帯等で、職員の共有と意識付けに努めている。また、毎月家族に送付する「ソラストだより」にも理念を掲載し、家族等とも共有を図っている。法人理念に基づいた事業所理念「明るく・楽しく・美しく」達成に向けての目標をキャリアパス評価項目に採り入れており、人事考課面談時に定期的に実践状況を振り返る機会を設け、実践に向け具体的に取り組む計画である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板での案内や、年間当番など受け持っている。コロナ禍になってから難しいがそれまでは近隣の保育園児との交流等もっていた。	コロナ禍以前は近隣の保育園児との交流・地域ボランティアの受け入れ等で地域交流を行っていた。コロナ禍のため通常の交流は行っていないが、自治会に加入し、回覧板での案内や、事業所周辺の清掃活動への参加、近隣の寺院での花見外出等、可能な方法で地域とのつながりを継続できるよう努めている。電話等による地域住民からの問い合わせに対して情報提供し、地域の困難事例への対応や、地域のクラブ活動への参加相談等、民生委員と連携を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせ等に対してグループホームにこだわらず、その方にあったサービス考えお話しさせていただき、詳しくお知りになりたいサービスがあればグループの施設からお話しして頂くようにする。		

グループホーム ソラスト西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面開催が続いているが、2か月に1回開催し助言や意見を頂くようにして、今後に取り入れていくことを考えている。	家族代表・市の権利擁護支援者・地域代表（民生委員）・知見者（他事業所管理者）を構成委員として2ヶ月に1回開催している。開催時には、事業所からセンター長・管理者が出席している。令和4年度は、現在まで5回書面会議とし、入居者・職員状況、行事、ヒヤリハット事例、感染状況、面会対応等の報告事項を議事録として作成し、構成委員・全家族に郵送している。「ご意見・ご助言記入用紙」を同封して返送を依頼し、意見等があれば議事録に反映することとしている。	・運営推進会議の議事録ファイルを設置する等、公開することが望まれる。 ・利用者が構成委員であることから、集合開催の再開後は、参加可能な利用者の短時間参加を検討してはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所より送られてくるメールに対して必ず確認・必要な場合は返信する。また不明な点については担当者に直接確認する。集団指導についても必ず参加するようにする。	運営推進会議（書面開催）を通して、市と連携がある。市から新型コロナウイルスの情報提供を受けて対応状況を報告する等メールでのやり取りや、集団指導（メール）への参加・運営指導の受審等を通じて連携し、事業所の感染予防策・適正な運営に反映している。相談・質問等は、主として電話で市の担当窓口と連絡し、利用者支援等に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの考えのもとに、3か月に1回行う身体拘束適正委員会以外に介護で身体拘束にはならない思われがちな事例をあげて事故などのリスクがある方の対応について話し合いを行う。	「身体拘束適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。3ヶ月に1回、管理者・身体拘束担当として各フロアから職員1名が参加して、「身体拘束適正化委員会」を開催し、利用者状況や身体拘束事例のない事を確認している。委員会議事録コピーへの回覧印により全職員への周知を確認している。年2回「身体拘束の排除」研修を実施している。1回目はeラーニング視聴によるテスト形式研修で実施し、受講者は研修レポートを提出している。参加できなかった職員には、視聴確認レポート提出により周知を図っている。2回目は適正化委員会での検討を研修として位置づけ議事録に記録している。希望があれば、屋上で気分転換を図る等閉塞感を感じないよう支援している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職研修時や年間研修でおこなってきたが、グループ内で虐待があったことを深く受け止めて共有部分だけでなく各居室に(許可制)カメラを設置しフロアアランドを行うことで虐待防止を努める。	「虐待防止委員会」を3ヶ月に1回「身体拘束適正化委員会」と同日開催し、委員会議事録コピーへの回覧印により全職員への周知を確認している。「虐待防止」研修について、不適切ケアチェックリストの活用・センター長講師による講義により年2回実施している。家族の承諾を得て居室へのカメラの設置、管理者・リーダーによる巡回時の対応状況確認等により、虐待の未然防止に取り組んでいる。管理者による定期的、随時の個別面談で相談しやすい関係づくりに努め、法人としてもストレスチェックの実施・相談窓口の設置等、職員のストレスや不安等が利用者へのケアに影響しないよう取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に個人的に研修を受けたことがあるが、相談を受けた時に理解できるように再度学びの場をつくるようにする。	権利擁護に関する制度について、近年活用の事例はない。今後、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、センター長・管理者が窓口となり、関係機関と連携して支援する体制がある。	「認知症ケア」研修に取り入れる等、職員が権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けることが望まる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時にパフレットの内容やよく聞かれる内容そして入居までの流れを説明し、契約時には読み合わせを行い、疑問や不安ないように行っている。	入居希望があれば多目的室での面談や見学に対応し、パンフレット・料金表等をもとにサービス内容・利用料金等を詳しく説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・各種同意書等を用いて説明し、文書で同意を得ている。退居要件・退居時の支援体制等については、特に丁寧な説明に努め不安の解消に努めている。契約内容の変更時は、変更部分をわかりやすく説明した文書を郵送し、文書で同意を得ている。	

グループホーム ソラスト西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。コロナ禍で面会が制限されているが来られるたびに様子を伝えるほかに、普段にない出来事があった場合は電話で伝えるようにしている。	面会時(予約制・多目的室での面会)や電話連絡時に近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。毎月「ソラストだより」にリーダーが個別のコメントを付して郵送し、生活や行事の様子を伝えている。把握した内容は、システム内「介護記録申し送り」で共有している。利用者の要望は日々の会話の中で把握に努め、家族との外出・外食等の要望は個別に対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談意見を聞くほかに、出勤時と退勤時は各フロアに上がり各スタッフに挨拶・声掛けを行い、疑問や不安は家に持ち帰らないように伝える。	基本的には月1回「フロア会議」を実施し、共有事項の報告・利用者状況の共有や検討・業務についての検討等を行い、職員の意見・提案が反映できるように取り組んでいる。各フロア会議議事録の回覧により、職員の共有・周知を図っている。日々の検討事項は、管理者・リーダーが意見を集約しシステム内「介護記録」で共有し、改善方法等を検討している。定期的には年2回、管理者が人事考課面談を、随時にも面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。管理者が「運営会議(月1回)」・「グループホーム管理者会(2ヶ月に1回)」に参加し、本部に職員の意見等を伝える機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	Thanksポイントが管理者が各スタッフへ感謝の言葉伝えるものがある。また、現場からあがる施設の改修についても積極的に上に依頼していつている。		

グループホーム ソラスト西宮

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修があり、インターネットで学習できる仕組みで個人携帯で学習が可能である。また資格を取る際に法人や市から援助などあることも伝える。また施設を代表者1名が認知症ケア指導員の講習を受けて施設内のスタッフ伝える制度をはじめます。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で通常に連絡会が行えていないが、集団指導など集まる機会には参加し交流をしていったり、フロア会議で他の事業所の管理者に参加していただく。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点でご家族様にフェイスシートの補助シートをお渡しして生活歴や趣味嗜好など記入していただき、それを基にご本人とお話しながら関係を築いていく。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居されてしばらくは詳細に記録し、こちらからご様子を連絡するようにする。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはご本人とご家族の要望に沿って計画をたて、サービスをおこない必要に応じて変更していく。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事について強力して頂いたり、相談したり関係づくりに築いていく。		

グループホーム ソラスト西宮

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子などは面会時には必ずお伝えし、報告が必要だと思われることに関しては電話連絡しお願いできることはお願いする中で、共に支える関係を築いていく。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでのサービスをおしつけるのではなく、主治医や福祉用具のレンタル業者、いきつけの美容院などはご本人の希望を尊重する。	コロナ禍のため通常の面会・交流は制限しているが、家族との多目的室面会・電話のやり取り、入居前からのサービスの利用等、可能な方法で馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。家族の了解を得て、友人・知人との面会にも対応している。また、状況を勘案しながら、美容院・墓参り・外食等、馴染みの場所への家族との外出支援にも、個別に対応している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	よほどのことがない限り食事やおやつは一緒にとっていただき、全員がそろってからの食事を開始しお声掛けする。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される際はホームでの生活様子がわかるような写真やデータをお渡しするようにする。また地域にすまれており、お会いしたらご挨拶やお話をさせて頂く。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフの気づきを大切に、どんな言動にたいしても意味を考え検討していく。	入居時は、家族記入の「補助シート」生活歴・趣味欄等から、利用者の思いや暮らし方の意向の把握に努めている。入居後は、日々のコミュニケーションの中で把握に努め、把握した思いや意向はシステム内「介護記録」で共有し、計画や利用者支援に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、家族情報・表情や反応から、また、個別にコミュニケーションを工夫しながら、汲み取れるように努めている。	入居後に把握した内容を「補助シート」に追記する等、情報を蓄積して職員間で共有し、介護計画や日々の個別支援に反映できるよう検討してはどうか。

グループホーム ソラスト西宮

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にフェイスシートの補助シートをお渡しして生活歴や趣味嗜好など記入して頂く。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の出来事を記録に残し、スタッフ間で意見をすり合わせ必要であればご家族にも相談し現状の把握に努める。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を伺い、介護記録などとフロア会議やリーダー会議、などで話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。	入居時に、入居前の情報・「フェイスシート」・家族記入の「補助シート」・「アセスメントシート」等をもとに、初回の介護計画を作成している。アセスメントシートと介護計画を綴じたファイルを各フロアに設置し、介護計画の周知を図っている。日々の実施状況をシステム内の介護記録等に記録している。検討事項があれば、月1回のフロア会議で検討している。定期的には、6ヶ月毎にモニタリングシートでモニタリングを、アセスメントシートで再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催し介護計画を見直している	・PDCAサイクルにもとづいた定期的な介護計画見直しが明確になる、ファイルの整備が望まれる。 ・担当者会議の際は、利用者・家族の意向、主治医等の関係者の意見を反映した検討を議事録に記録することが望まれる。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートにご本人の言動を事細かく記入し、職員間で情報の共有を図っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のニーズに対応し、専門医や訪問リハやマッサージの利用、ボランティアにも協力も受けている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で現状はボランティア等が来ていただけないが、コロナ禍が明ければ積極的に進めていきたいと考えます。		



グループホーム ソラスト西宮

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)		<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居の際には主治医はどうするかのお話の際に、かかりつけ医でもかまわないことをご説明するように説明を行っている。</p>	<p>契約時に、事業所の協力医療機関による受診も可能であることを説明し、利用者・家族の希望に沿った受診を支援している。月2回内科の訪問診療、希望に応じて月2回の心療内科、週1回歯科の訪問診療、必要に応じて皮膚科・眼科・泌尿器科の往診を受けられる体制がある。他科通院による受診は、家族同行を基本とし、かかりつけ医の診療情報提供書等で情報提供を行っている。訪問診療(歯科以外)についての記録は、「ソラスト西宮一覧表」で、特記事項があればシステム内でも共有し、通院時の情報もシステム内で共有している。現在はグループ内の訪問看護師が定期訪問し健康管理や助言を行い、かかりつけ医と連携を図っている。今後、訪問看護ステーションの看護師が週1回訪問する計画である。</p>	
31			<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師は常駐していないが、かかりつけ医の看護師とは連携をとっており、月4回グループから看護師くる体制をとっている。</p>	/	
32	(15)		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>管理者が中心になって地域連携室に連絡をいれたり、必要に応じて病棟にも連絡するなどして正しい情報を交換している。</p>	<p>入院時は、事業所から「アセスメントシート」「お薬手帳」、かかりつけ医の「診療情報提供書」等で医療機関に情報を提供している。現在は、面会が困難な状況であり、管理者が家族経由や地域医療連携室と、また、必要に応じて病棟看護師と情報交換を行い、入院中の情報はシステム内介護記録で共有している。退院時には「看護サマリー」で情報提供を受け、担当者会議を開催してサマリーをもとに共有を図り、退院後の状況に応じて、支援方法や介護計画の見直しを検討している。</p>	

グループホーム ソラスト西宮

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と主治医・看護師とフロアリーダー(担当者)管理者を含めてカンファレンスを開き、主治医からは病状の説明、今後の考えられることを説明していただき、管理者からはホームでできることを伝え方針を決めています。	契約時に、重度化指針・看取り指針に沿って、事業所の対応方針を家族に説明し同意を得ている。終末期を迎えた段階で、カンファレンスを実施し、主治医から家族と共に状況説明を受け、管理者が事業所でできる事・できない事を説明して意向確認している。看取り介護の希望があれば「看取りの同意書」で同意を得ている。計画を「看取り介護」に向けた内容に見直し、主治医、看護師、薬剤師、職員等関係者が連携して家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。家族対応や支援についての経過は、システム内で共有している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり連絡・報告が速やかに行われフロアに掲示しているが、今後は消防隊員情報提供書を作成、その中に必要される情報を入力予定。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災時の訓練を行い、推進会議で訓練の実施方法や結果を検討してアドバイスを受ける。	直近1年で2回(令和3年3月・令和4年7月)、当日出勤職員と可能な限り利用者も参加し、共に昼間想定で「火災時の避難訓練」手順に沿って訓練を実施している。年度内に夜間想定での訓練実施を計画している。通常は、運営推進会議で訓練の実施方法等を議題に挙げて検討する機会を設け、地域との協力関係について助言を得ている。現在は書面開催になっているため、再開後に地域との協力体制についての検討を予定している。本社送付のレトルト食品を3日分程度備蓄保管し、賞味期限等は本社で管理している。	訓練手順は作成されているが、実施状況や評価・課題等を記録した訓練実施報告書も作成し、参加できなかった職員に回覧等で周知することが望まれる。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時や年間の研修を行い、人格の尊重やプライバシーにの確保・声かけを行っている。会議でも声かけの仕方についても話し合っている。	不適切ケアチェックリストの集計結果の検討、職員会議、身体拘束・虐待防止委員会活動等を通じて、尊厳やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について周知を図っている。管理者・リーダーの巡回時等に、気になる言葉かけ等があれば、都度助言・注意喚起し、不適切ケアの未然防止に努めている。写真等映像や制作物の使用に関しては、入居時に「映像及び制作物の使用に関する承諾書」で家族の承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いを尊重し、自己決定が行えるように色々な場面で働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の思いやペースを大切にし、生活リズムをつけながら、起床や就寝などご希望に添えるように行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様のご希望に添えるように、化粧される方には継続していただけるように支援するなど、おしゃれのお手伝いをする。		

グループホーム ソラスト西宮

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房が手作りしたものをオープンキッチンになっている各フロアの職員が、ご利用者様に声かけしながら盛り付ける。食器洗いや拭きについてはご利用者様に手伝っていただく。	委託業者から届けられるクックチル調理食品を各フロアのキッチンで温め、炊飯も各フロアで行い提供している。委託業者の献立には、季節感や行事食も採り入れ、利用者個々の状況に応じた食事形態に対応している。日々の利用者の嗜好・要望等は、月1回訪問する委託業者に直接伝え、献立・調理法等の改善に反映させる仕組みがある。可能な利用者は、食器洗い・食器拭き等に参加できるように支援している。業者の献立を中止して、利用者の好みに合わせて調理レクリエーション、手作りおやつのお機会を設ける等、利用者が食事を楽しめるよう努めている。また、誕生日会には手作りケーキで祝っている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の栄養士が献立もので栄養バランスを管理、食事の形態などは主治医などに相談しながら決定、食事量・水分量はチェック表を確認しながら提供していく。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけしてやっていただいたりお手伝いをする。また必要に応じて訪問歯科に来て頂き、指示を受けながら行っていく。		
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンの把握し、生活リハの一環としてご自身でできることはやっていただき、機能維持や回復に努める。	排泄の自立度に個人差が大きい状況であり、「排泄チェック表」で排泄状況・排泄パターンを把握し、可能な利用者には日中はトイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間は安眠に配慮し、排泄用品の使用等個々の状況に応じて対応している。介助方法や排泄用品について検討が必要な場合は、都度管理者に相談して介護記録で共有したり、フロア会議で検討し現状に適した支援につなげている。誘導時の声かけ・カーテンの開閉等、プライバシーや羞恥心への配慮の周知に努めている。	

グループホーム ソラスト西宮

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やマッサージ、牛乳やオリゴ糖など食品の工夫などして排便に努めるが、便秘が続くようであれば主治医に相談する。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、ご本人の体調や気分・希望を考慮して行う。同姓介助を望まれているご入居者には適切な対応をする。	週2回の入浴を基本とし、事前に曜日・時間等スケジュールは決めているが、利用者の体調・気分等に応じて柔軟に対応している。個浴槽で一人ずつ湯を入れ替え、「入浴表」で入浴状況を確認している。浴槽での入浴が困難な場合はシャワー浴・足浴で対応し、同性介助希望への対応、入浴拒否への声掛けやタイミングの工夫等、個別の配慮を行い、週2回の入浴機会の確保に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の状態を考えながら、日中でも休息をとって頂いたり、夜間は安心して眠れるよう環境を整える。眠れないご入居者には、傾聴し寄り添う支援を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認・管理し目的や副作用について主治医と提携している薬局に確認し変更なども伝達をうけるようにする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状コロナ禍で外部の交流が難しくなっているが、できるだけお答えできるように努める。洗濯や食事の片付けなど役割をもって頂く意味で一緒にして頂く。		

グループホーム ソラスト西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は制限されているが、行きつけの美容院などについては、それ以外は立ち寄らないって条件で行っていただいている。	通常は、日課として近隣への散歩や買い物、外出レクリエーションとして、初詣・コスモス鑑賞等季節の外出機会を設けていた。現在はコロナ禍のため外出が制限されているが、近隣の寺院での花見・家族同行での馴染みの美容院等への外出等を支援している。また、屋上で洗濯物を干したり、外の景色やおやつを楽しむ等、戸外で気分転換できるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	気持ちがおちつくなどご希望されるご入居者に対しては持っていただくことは認めているが、財布から使用されることはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をご持参される方もおられるが、ご希望があればホームの電話を使用していただけようになっている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに季節を感じていただける飾りつけを行い、ご入居者に合わせた室温・テーブル配置、音や光などが刺激にならないように配慮を行う。	空気清浄機の設置、LED照明・窓からの採光・音量の調節により、また、テーブル席・ソファ席を各フロアの利用者状況に合わせて設置し、利用者が快適に寛げる環境づくりに努めている。各フロアにひな壇・菜の花の作品等が飾られ、季節感が感じられるよう工夫している。可能な利用者は、食器洗い・洗濯物たたみ・食材包装袋の整理等家事に参加できるように支援し、生活感を取り入れている。日課として体操、レクリエーションとして制作・歌等を利用者のADL・好みに合わせて取り入れ、楽しみながら心身の機能低下予防に取り組んでいる。屋上も、外気浴・歩行訓練・洗濯干し等の共用空間として利用者支援に活用している。	

グループホーム ソラスト西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置しくつろぎの空間を提供、スタッフはご入居者とお話しやすい状況をつくっていく。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箸や食器類、見慣れた家具をもってきていただいたり壁に装飾を飾って頂いたりして、ご自分の家であると感じていただけるように工夫する。	居室にはベッド・チェスト・洗面台が設置され、空気清浄機・テレビ・寝具・仏壇等、使い慣れた家具や電化製品、馴染みの物が持ち込まれ、自宅と同様に居心地よく過ごせる居室づくりを行っている。利用者担当職員を設け、掃除・整理整頓、また、家族と協力しながら衣類・備品の管理等を支援している。家具を利用者の動線に配慮して設置し、利用者が安全に移動でき自立した生活が継続できるよう環境整備に努めている。居室前に大きな表札を掲示し、場所間違いの防止に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなど迷うことなくしようにできるように掲示したり、部屋に帰るときに迷わないように工夫する。		